



2019.11.7

福証IRフェア説明資料

小野建株式会社

証券コード 7414



目次

- I 当社概略、取扱い品種、鉄の使用例、福岡での納入実績
- II 小野建の事業戦略、中長期に向けての取り組み
- III 販売形態、当社所有の物流センター
- IV 2019年3月期の動向、2019年3月期今後の見通し
- V 株主還元・株価指標について、参考資料

本資料および将来の見通しに関する注意事項

本資料は事業内容等に関する情報提供を目的としており、当社株式への投資を推奨するものではありません。また、資料に記載されている内容につきましては、種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。

会社概要

商号

小野建株式会社

設立

1949年8月

代表者

小野 建

資本金

42億9,980万円

連結売上高

2,321億6,400万円

従業員

718 人(連結)

上場取引所

東京①・福岡(7414)

本社

福岡県北九州市

業種

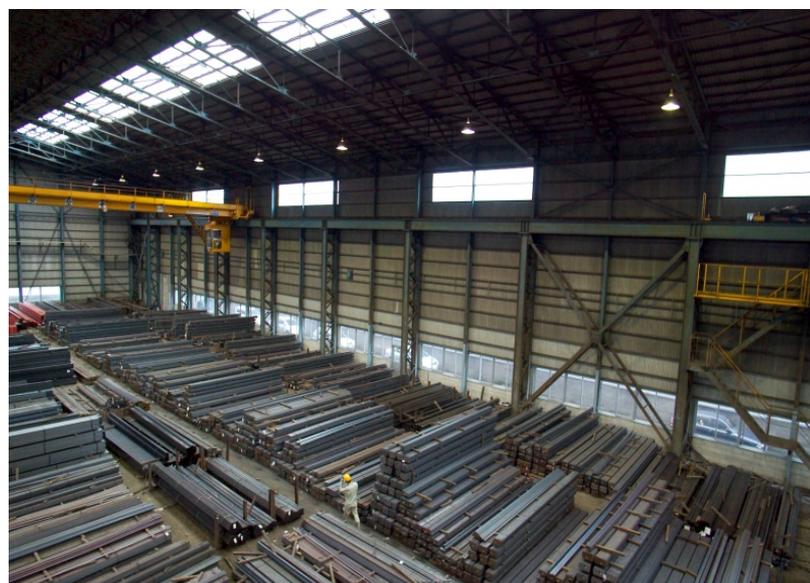
鉄鋼・建材流通商社

主な事業内容

鋼材の販売・加工
土木建築材料の販売
土木建築工事の請負

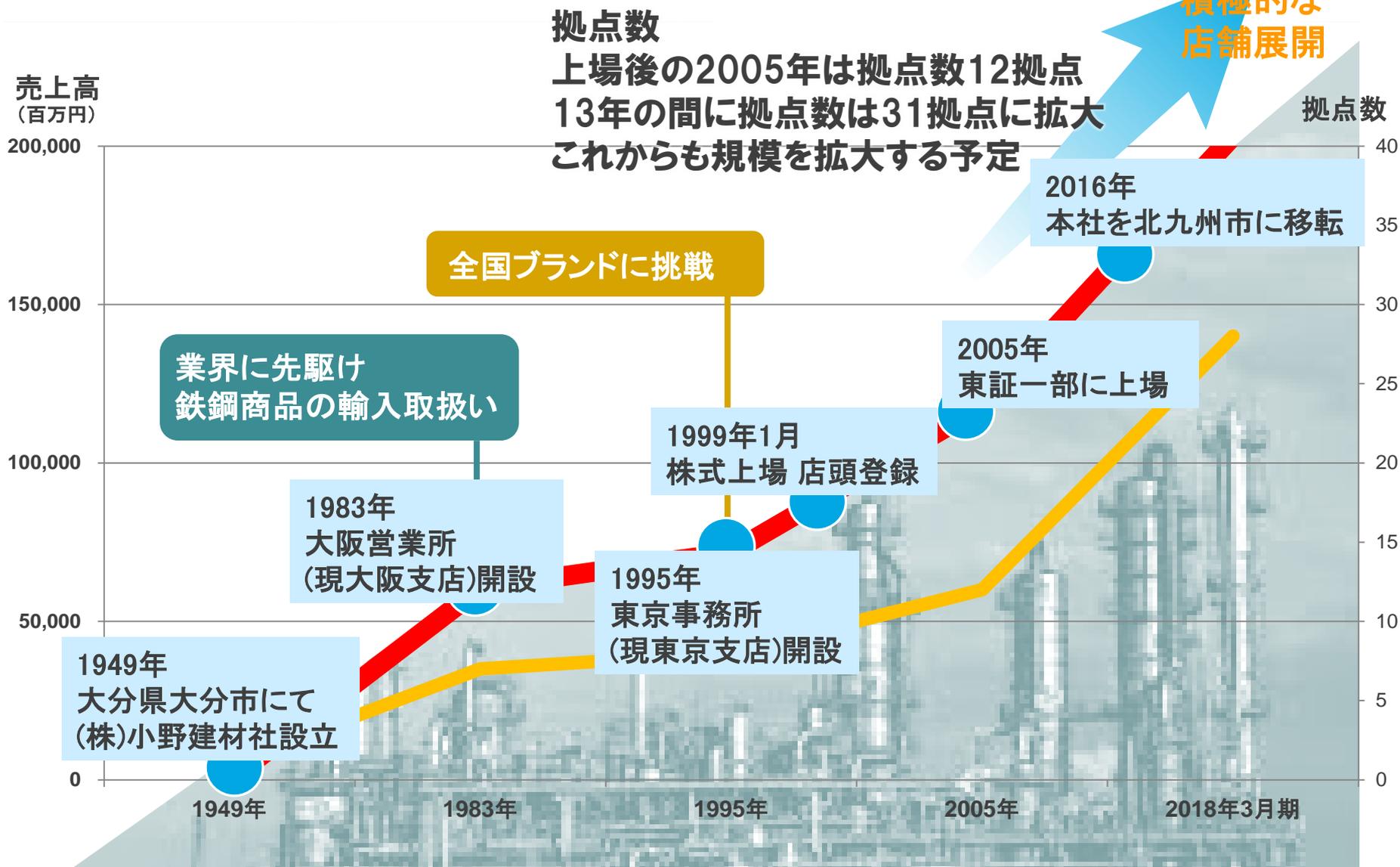


小野建株式会社 本社・小倉支店



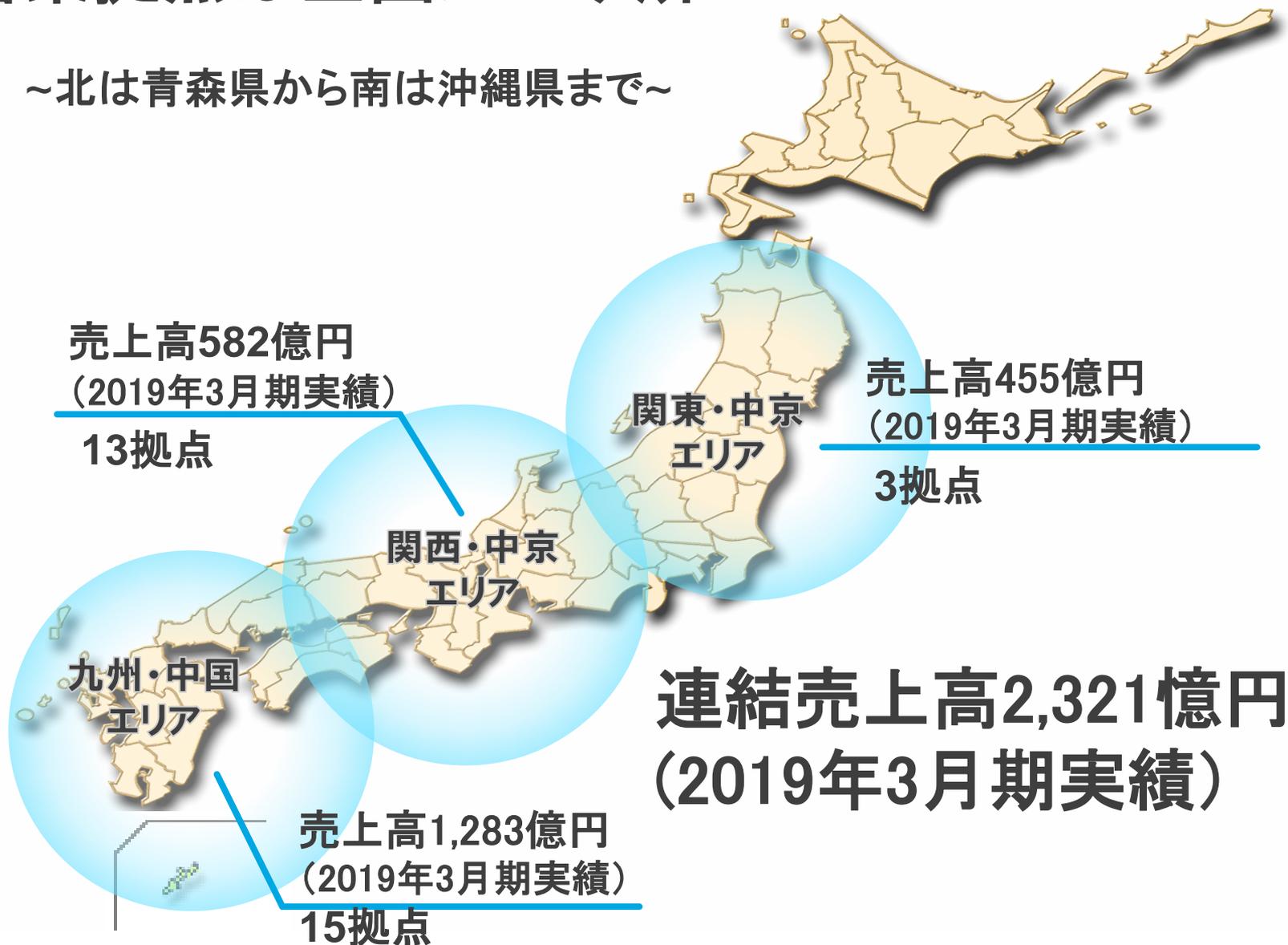
小倉支店 倉庫内

小野建の歩み



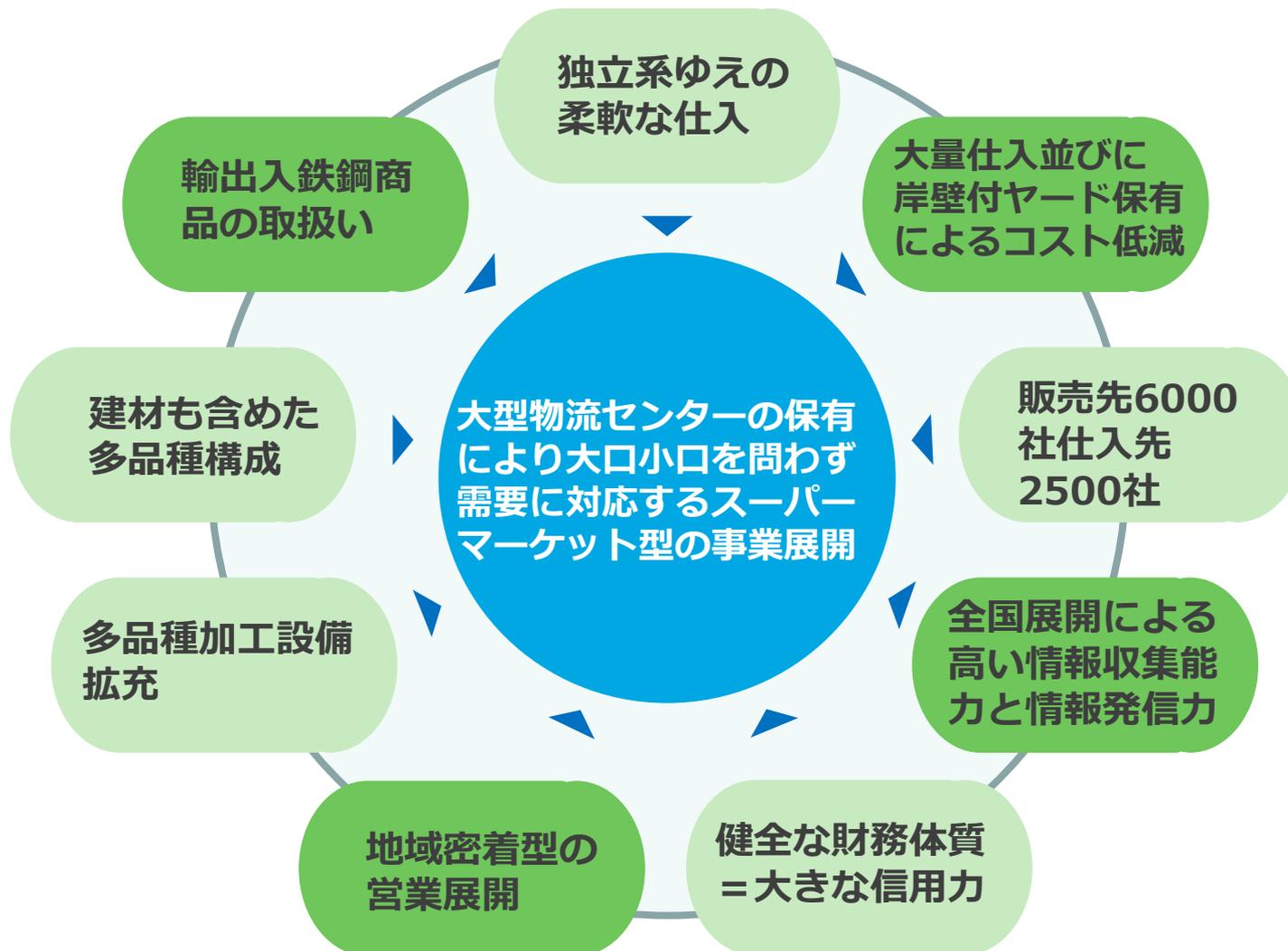
営業拠点は全国に31ヶ所

～北は青森県から南は沖縄県まで～

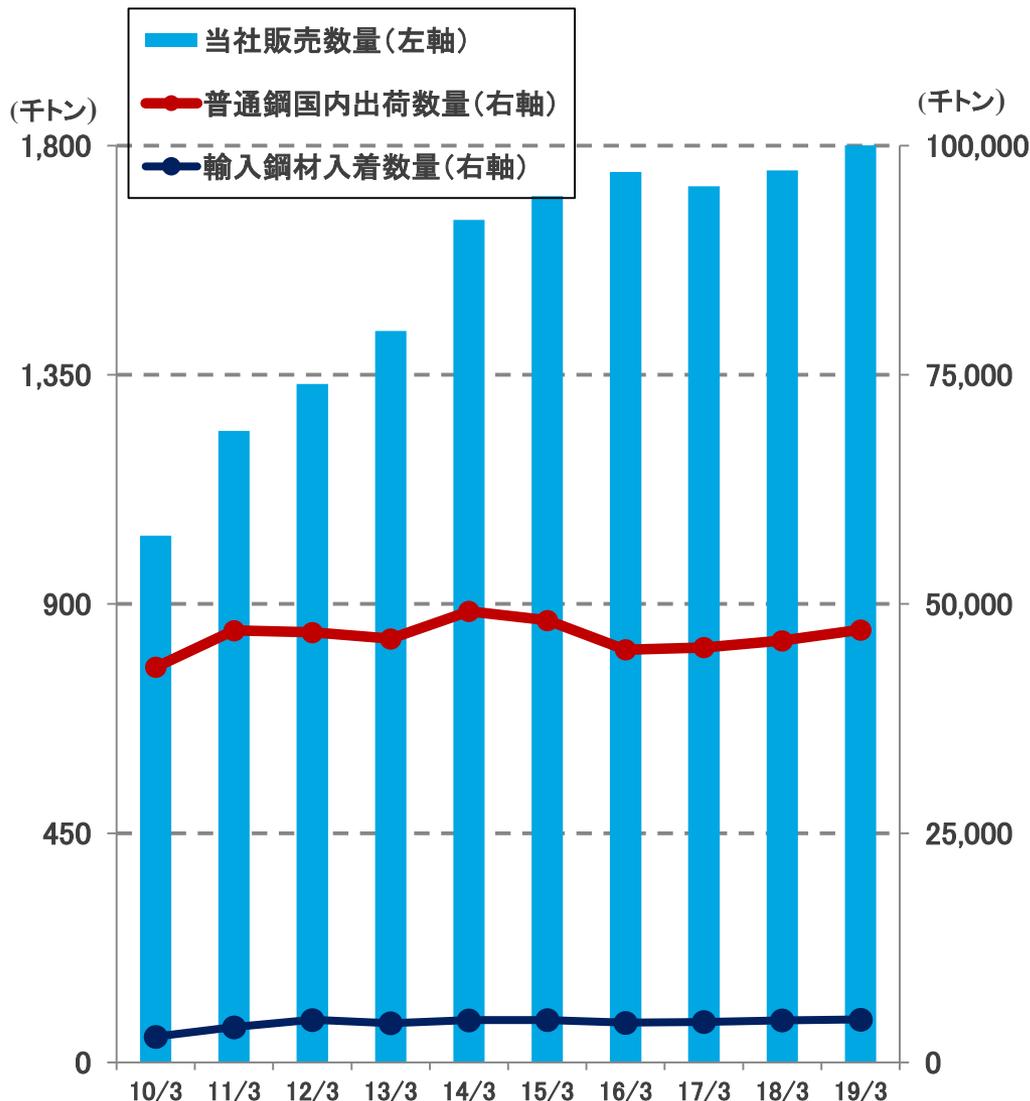


小野建の強み

物流センターを活用した「鉄と建材のスーパーマーケット」



小野建の市場占有率



【市場との比較】

- 普通鋼国内出荷数量は、近年横ばいの傾向にある中、当社の販売数量は順調に増加
- 全国と同業者約700社の中でトップシェアながら現在3%程度
今後もエリアを拡大し、販売数量を伸ばす

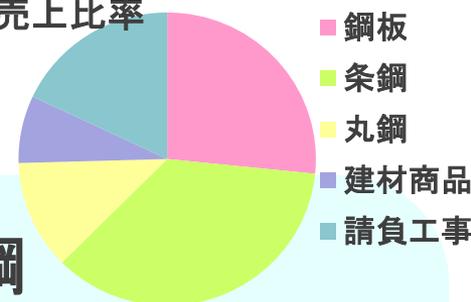
今後人口減少等により
市場は縮小していくことが予想されるが、

小野建の強みを活かして
勝ち残りへ

※日本鉄鋼連盟資料より当社作成

取扱い品種

売上比率



鉄鋼商品

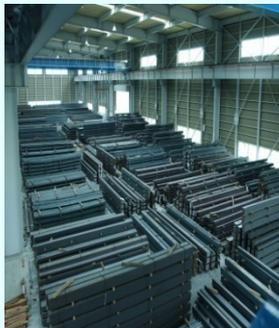
鋼板

鉄を板状にしたもの
工事現場の敷板等に用いられる



条鋼

型鋼とも呼ばれ、色々な形に
成形したもの
建物の骨組等に用いられる



丸鋼

鉄を丸い棒状にしたもの
建物の基礎等に用いられる



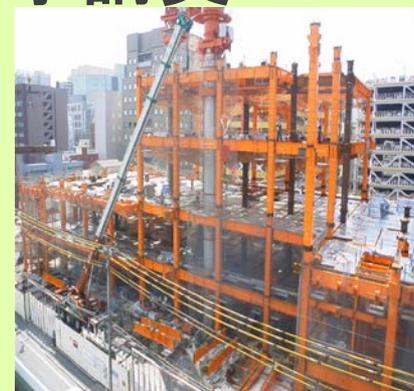
建材商品

土木・建築工事に
使用される材料
鋼矢板・屋根・
フェンス・サッシ等
写真はフェンス、
鋼矢板



工事請負

鉄骨工事
屋根工事
外壁工事
サッシ工事
杭工事など



鉄の使用例

鋼板

- ・工事現場の敷板
- ・車、船、プラント、製缶など



鉄鋼商品

条鋼

- ・建物の骨組
- ・橋など

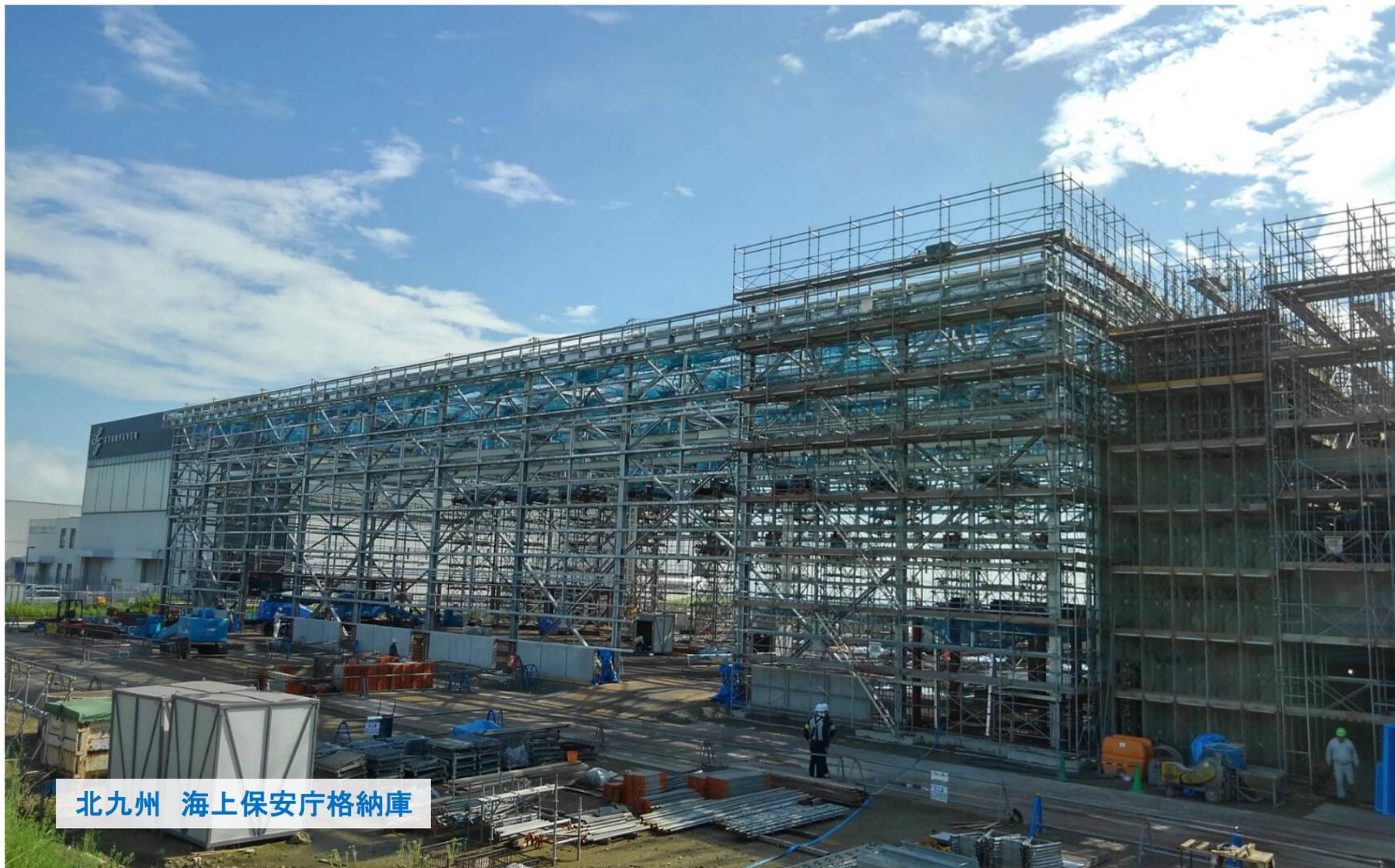


丸鋼

- ・建物の基礎
- ・マンションなど建物本体



鉄骨工事の様子



北九州 海上保安庁格納庫

鉄骨工事の様子



諫早駅 新駅舎

福岡での納入実績



基本事業戦略

販売エリアの拡大とシェアの向上

地域密着型の営業展開

- 各地それぞれのニーズに対応し、取扱い品種を変化させる
- 鉄鋼商品だけでなく工事を含む建材部門も含め多様な販売先を持つ
- ヤードの点在化により、需要地までの近距離化
- 小口需要に対応する在庫・配送体制の強化(自社小型トラック等の配置)
- **工事請負業務の拡大**

物流センターを活用した多品種構成

- マーケットが縮小しているなか、鋼材のダム機能としての役割を拡充
- ユーザー直結の川下戦略を徹底し、販売先数を拡大
- 鉄鋼流通業界において、豊富な在庫を持って商売を行うことは大きな強み
- **ヤード内に加工設備を充実し、付加価値の向上**

収益の向上

国内外を問わない柔軟な仕入ソース

- 独立系であり販売力があることが国内メーカーとの関係強化に結実
- 30年来培った輸入鋼材活用のノウハウは大きな特長

当社所有の物流センター



大阪支店 堺スチールセンター並びに 子会社三協則武興業の様子

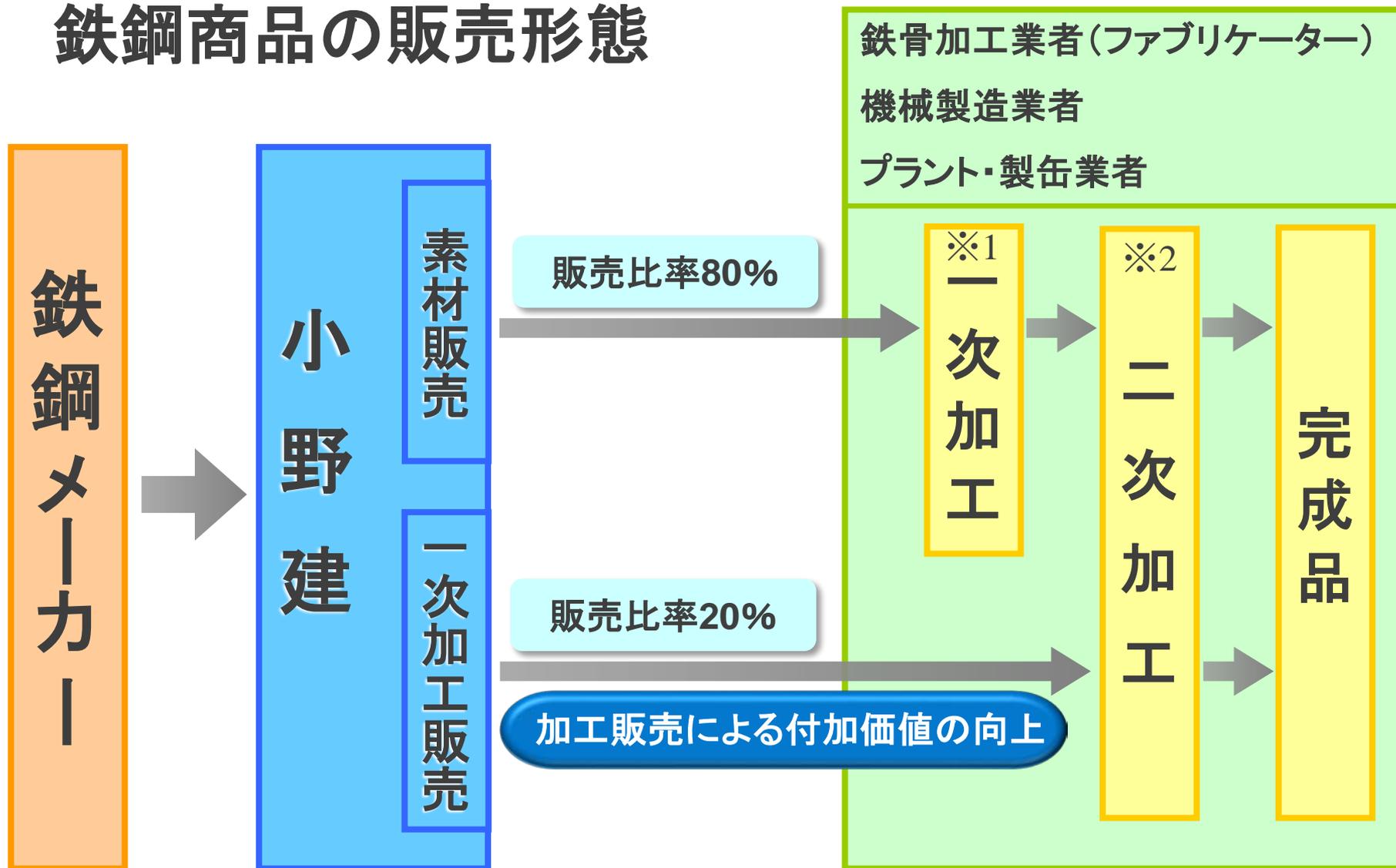


現在から中長期に向けての取り組み

- 付加価値の向上と工事請負事業の拡大
- 各既存ヤード内における加工設備の拡充と ヤード新設の促進
- 工事請負の拡大
 - 鉄骨加工業者とのネットワーク構築の推進
 - 施工管理者の育成強化
 - 技術集団(職人等)の育成強化
職人集団である子会社(有)ブライトの業務拡大

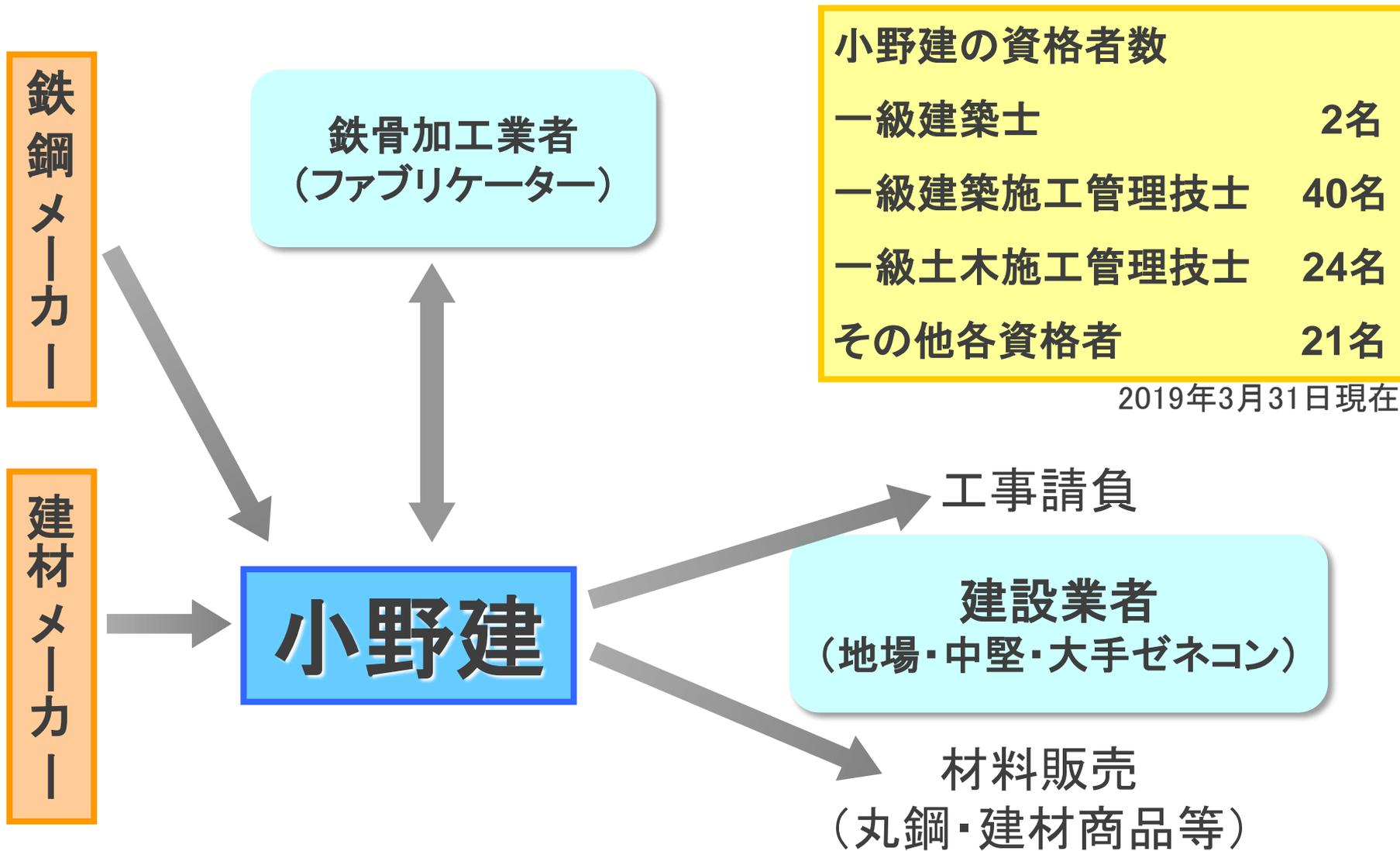
同業他社との差別化と収益向上を目指す

鉄鋼商品の販売形態



- ※1一次加工・・・素材を販売ニーズに合わせ、切断・穴あけ等の加工
- ※2二次加工・・・一次加工品に組立・溶接・塗装等の加工

建材販売形態



2020年3月期の動向

鉄鋼市況の動向

- メーカーの値上げ圧力は継続しているものの、スクラップなどの原材料価格が下落局面になるなり、国際鉄鋼市況も下落していることから国内鉄鋼市況も下落局面になっている

需要の動向

- 地域差はあるものの、建設関連業界の需要環境は概ね好調に推移しているものの、その他プラントなどの鉄鋼関連業界並びに輸出関連業界の需要は弱含みで推移している

供給の動向

- 建設関連の建材メーカーサイドは依然として商品供給納期が長期化しており、さらに工務関係者(工事管理者・職人など)の不足により工事遅延が発生している

2020年3月期 今後の見通し

- 鉄鋼商品販売においては、建設関連向けは順調に推移するものの、その他業種は需要が弱含む中で販売数量は伸び悩む
 - ⇒加工商品販売に注力しており今後販売比率を高め、他社との差別化と収益率アップを目指す
- 建機工事は受注残も多く、順調に推移

株主還元・株価指標について

着実な利益＝着実な配当

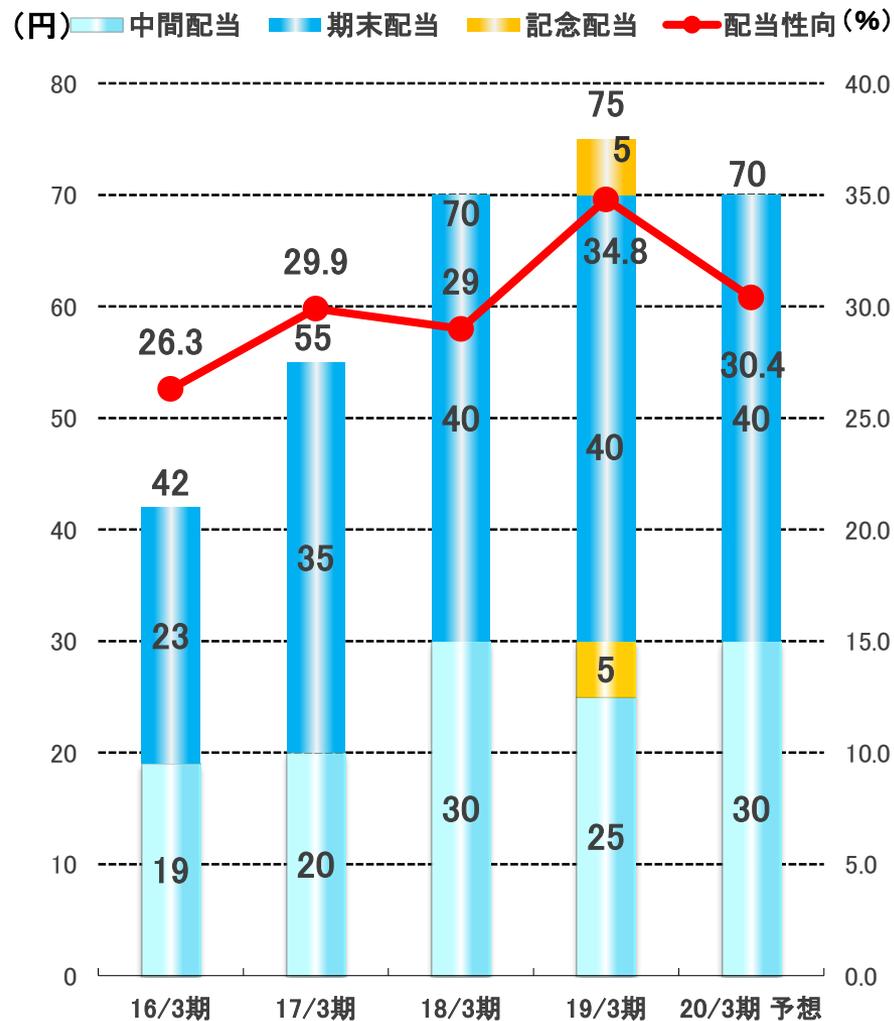
- 配当性向30%を原則に安定かつ高水準の利益還元を継続的に行う
- 中間配当制度を活用し、9月末日、3月末日の年2回、株主の皆様への配当を実施
- 19/3期は70周年記念配当の実施（中間5円・期末5円）

実績PBR(純資産倍率) → 0.45倍

予想PER(株価収益率) → 7.09倍

予想配当利回り → 4.90%

※数値は株価 1,429円(11/5終値)をベースとして





參考資料

ONOKEN

損益計算書(連結)

(百万円)

	17/3期 実績	18/3期 実績	19/3期 実績	前年比増減率	20/3期 通期計画	前年比増減率
売上高	176,360	203,151	232,164	+ 14.3 %	247,567	+ 6.6 %
売上原価	159,256	183,936	211,955	+15.2 %	227,004	+ 7.1 %
売上総利益	17,104	19,215	20,209	+5.1 %	20,563	+ 1.8 %
販売費及び一般管理費	11,711	12,235	13,576	+11.0 %	13,484	△ 0.7 %
営業利益	5,392	6,980	6,632	△5.0 %	7,079	△ 6.7 %
営業外収益	322	302	286	△5.3 %	223	△ 22.0 %
営業外費用	83	92	238	+158.7 %	98	△ 58.8 %
経常利益	5,630	7,190	6,680	△7.1 %	7,204	+ 7.8 %
特別利益	201	403	428	+6.2 %	12	△ 97.2 %
特別損失	341	335	3	△99.1 %	0	△ 100.0 %
税引前当期純利益	5,490	7,258	7,105	△2.1 %	7,216	+ 1.6 %
法人税・住民税及び事業税	1,671	2,232	2,441	+9.4 %	2,229	△ 8.7 %
親会社株主当期純利益	3,818	5,025	4,664	△7.2 %	4,987	+ 6.9 %

セグメント別業績推移(連結)

(百万円)

		17/3期 実績	18/3期 実績	19/3期 計画
九州・中国 エリア	売上	101,609	115,041	128,337
	利益	3,447	4,207	4,405
関西・中京 エリア	売上	40,597	48,571	58,250
	利益	773	1,337	1,339
関東・東北 エリア	売上	34,154	39,538	45,576
	利益	1,189	1,427	909

売上高は「外部顧客への売上高」を記載

貸借対照表(連結)

※主要項目のみ記載しております

(百万円)

	18/3期 実績	19/3期 実績	増減	増減率
流動資産	95,041	108,673	+ 13,632	+ 14.3 %
固定資産	50,408	49,944	△ 464	△ 0.9 %
資産合計	145,449	158,618	+ 13,169	+ 9.1 %
流動負債	78,299	88,051	+ 9,752	+ 12.5 %
固定負債	2,268	2,034	△ 234	△ 10.3 %
負債合計	80,568	90,086	+ 9,518	+ 11.8 %
純資産合計	64,881	68,531	+ 3,650	+ 5.6 %
負債・純資産合計	145,449	158,618	+ 13,169	+ 9.1 %

自己資本比率

44.6 %

43.2 %